

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671300206
法人名	社会福祉法人 弥勒会
事業所名	グループホーム いでの里
所在地	京都府綴喜郡井手町井手弥勒1-1 (電話) 0774-99-4318

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年4月17日
評価確定日	平成21年6月10日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 18日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 3 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1430 円			

## (4) 利用者の概要( 3月 18日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.25 歳	最低 68 歳	最高 96 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都伏見しみず病院・京都黄檗病院・きず川病院・後藤田歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人弥勒会が運営する当該ホームは、井手町と連携し総合施設として地域に根ざされています。桜並木や里山・川など自然に囲まれ、季節の移りを感じられる環境にあるホームは、利用者の出来ることや行いたいことに目を向け生き生きとした生活を送られています。毎月、家族を招いて夕食会の開催や「ありがとう通信」を発行し、今まで見なかった利用者の表情を掲載し家族から喜ばれ、来訪時には介護日誌を閲覧してもらうなど家族との繋がりを大切に支援しています。また、町主催の文化祭に利用者の作品を出展したりコーラスグループで出演したり、小学校・保育所・ボランティアとの交流、管理者が認知症サポーターの講師を務めるなど積極的に地域との交流に努めているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった、家族への報告については、毎月夕食会を開催したり、ありがとう通信」に利用者の写真を添えて伝えています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、それぞれの職員が係わっている項目を記入してもらい、職員で話し合いまとめました。問題点や解らない点、意見などを話し合い改善に向けて取り組んでいます。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や地域包括支援センター職員、社会福祉協議会事務局長、老人クラブ会長などが参加する運営推進会議を4か月に1回、開催しています。会議前に案内を配布して、ホームから入居者状況や行事報告、今後の予定などを報告し、参加者からの質疑応答をしています。また、消防署や地域のスーパーにも参加を呼びかけています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置しています。来訪時や運営推進会議・夕食会に参加があり、話しやすい関係作りに努めています。家族からの意見や相談は、記録に残し職員で共有し、話し合い改善に取り組んでいます。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月、保育園児の来訪があり、小学校の運動会の見学に行ったり、体験学習の受け入れを行っています。町主催の文化祭に作品を出展したり、コーラスグループが出演するなど地域との交流に努めています。また、管理者が認知症サポーターの講師を務める中で、草抜きや傾聴ボランティアの来訪に繋がっています。ヘルパー研修の実習の場としても受け入れを行っています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基にホーム独自の「自立した日常生活を援助し、なじみの地域での居宅生活をめざす」と「ひとり一人の思いをしっかりと聞き取って自立のある生活を送っていただけるようにしましょう」を職員全員で作成し、21年度グループホームケア目標としました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や目標を事務所に掲示し、毎日の仕事始めや終了後に振り返りを行っています。また、理念や方針とは別に、本から抜粋した職員の目標を作り1日1項目を取り入れ理念とともに振り返り話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月、保育園児の来訪や小学校の運動会の見学、町主催のふれあい福祉祭りに利用者がコーラスクラブとして出演したり町文化祭に作品を出展するなど積極的に交流しています。また、管理者が認知症サポーターの講師を務める中で、地域のつながりが広がりボランティアの来所機会となっています。ペルパー実習先の受け入れも行っていきます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、手分けし、職員が関わっている項目について記入してもらいました。問題点を会議で話し合い意見を聞き検討しながら管理者がまとめました。職員からの素直な意見や解らない項目を話し合いケアに繋がられるよう取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会事務局長、老人クラブ会長などが参加する運営推進会議を4か月に1回、開催しています。参加者には事前に、入居者状況や行事報告、予定など案内を配布し、質疑応答しながら有意義な場となっています。また、消防署や地域のスーパーなどにも参加してもらえよう呼びかけています。	○	ホームの状況もありますが、夕食会の前後やホームの行事に合わせて開催されるなど工夫をされ2か月に1回の開催期間の検討をされてはいかがでしょうか。

グループホームいでの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者には、運営推進会議の議事録を持参しています。出向くことが多くあり、待機者の相談など何かあれば話し合いする機会を持ちサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ありがとう通信」を発行し、暮らしぶりをや、利用者ごとの様子を写真に収めて報告しており、利用者の生き生きした表情に家族からは大変喜ばれています。来訪時にも家族に利用者の状況を知ってもらう為、介護日誌を必ず見てもらい、説明しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。家族の来訪が多くあり、直接話されることも多く、すぐに対処できることはその場で行っています。家族からの意見は、職員の連絡帳に記載し共有し、話し合いを持ち改善に取り組んでいます。また、金銭管理は預かり金対応で、出納帳を見てもらいレシートを渡しサインを頂いています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はありますが、同じ建物内に当該ホームがあり、利用者や職員の行き来があり馴染みの関係が来ています。また、新任職員には1か月間、利用者とのコミュニケーションが多く取れるような体制や夜間勤務を2人にしたり、管理者が話題や情報提供をするなど働きやすい環境を整えています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画があり、外部研修の情報も届き、職員の参加が出来るようにしています。受講者は、伝達研修を行い、報告書には受講によってホームで活かせることはないかを記入する項目があり、研修を日々の支援に生かせる工夫がなされています。内部研修では、本やテレビなどからの情報を話題にして、日々の勉強と位置付けて話し合っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の職員同士は積極的に交流をしています。市内の他事業所とは利用者と職員を交えての交流ができるように話し合いを持っていますが実行するには至っていません。	○	他ホームとの交流を検討中ですが、同業者とのネットワーク作りや勉強会、相互訪問などを通じて職員育成やサービスの向上に繋げることも考え他事業所との交流を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人の在宅サービス利用から入居に至る方も多く、家庭訪問や法人のディサービス、ショートステイの利用時に遊びに来てもらったり、職員が在宅サービス利用時に会いに行き顔なじみになるように努めています。入居後は、法人内のサービスに係わってきた職員が面会に来たり、家族の理解も得ながら外出や外泊の機会をつくるなど少しずつ馴染んでもらえるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活する中で、多くの会話をもち利用者を理解し、尊重しながら何でも話し合える関係作りに努めています。男性利用者とは野球の話をしたり、履歴の中で輝いていた時代の話聞き学びつつ思いに寄り添い支援を行っている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者とのかわりの中で会話や行動を把握できるように努めています。センター方式を利用しながら、利用者や家族からの意向や希望の把握を聞きながら、カンファレンスで話し合っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用しアセスメントを行ない、受診時に同行して医師からの意見や家族、利用者との会話の中から希望を取り入れながらカンファレンスで話し合い利用者一人ひとりに合った介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式の「心のシート」に利用者が言われたことを職員はメモ書きで貼り付け、その情報を見直しに繋がっています。日々の記録や毎月のモニタリング、評価、家族も交えたカンファレンスを開催し、状況に応じた介護計画を見直しされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	総合施設の特色を活かし、訪問理美容や習字・コーラスクラブにケアハウスや特養の利用者と一緒に参加しています。また、買い物や通院同行など利用者ひとり一人の希望や要望に応じた支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医を継続しています。受診時の同行や同行出来ない時には、情報提供書を家族に渡してもらっています。協力医療機関から往診が月に2回あり、緊急時の対応に応じてもらえるように連携を取っています。また、法人の特養の看護師の協力も得ています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医、職員と話し合いを持ち、希望に応じた支援ができるようにしています。	○	今後、重度化や終末期に向けたケアが必要となることも考えられることから、利用前や状況に応じてホームとして「出来ること・出来ないこと」を書面を通して説明できる体制の整備を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は、事務所の鍵の掛かるロッカーに保管しています。同性介助の入浴や利用者が居室で仏壇にお参りしている時などは入らないなど、状況に応じた気遣いや声掛け、利用者のプライバシーが守れるように心がけています。また、なれなれしくなり過ぎるような時には、職員同士で注意し合っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の出来ることややりたいことができるよう利用者の希望や要望に応じた自由な生活ができるように支援しています。一人ひとりにスポットを当てた支援に心掛けており、自信に繋げるような配慮がなされています。		

グループホームいでの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から盛り付け、後片付け、座ってでも出来ることに係わってもらっています。大まかな献立を作り、肉と魚を広告を見ながら購入し、不足分を職員と一緒に買い物に出かけています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大きな浴槽で、利用者同士や職員と一緒に入り、入浴を楽しんでいます。希望があれば毎日の入浴や利用者の状況に応じて無理なく気兼ねなく入浴が楽しめるようにしています。また、入浴拒否傾向の利用者には、職員が声掛けの工夫をしながら気持ちよく入れるように工夫しています。身体状況に応じて特養の入浴も利用できるようになっています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や盛り付け、後片付けなどの役割やミシンを使ったりキーボード演奏を楽しみにしています。また、法人での習字・コーラスクラブに参加したり、町主催の文化祭に作品の出展やコーラスの出演も毎年の楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日には、法人の敷地内を散歩したり、広いベランダに出てひなたぼっこや天気の良い日には毎日の買い物、お地藏様にお参りに行ったり、近隣の堤防まで散歩に出かけています。また毎月、喫茶店や外食に出かけています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は階段があり、周りが竹林であることなどから利用者や家族に説明し納得してもらった上で鍵を掛けています。利用者が出かけた様子を感じたら、職員と一緒にテラスに出たり、法人の施設内を一周するなど気分転換をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人合同で、年に1回消防訓練をしています。管理者は、抜き打ちで職員に「火事になったらどうする？何処に逃げる？」などの問いかけやシミュレーションをしています。また、利用者や火事になったときの避難場所について話をしています。ホーム独自で行事として消防訓練をする予定です。	○	運営推進会議で防災対策・消防団の協力などの提案やホーム独自で消防訓練をする予定ですが、出火場所によっては、法人職員の協力も得られない状況や法人の周りが竹林の環境であるなどを考慮して、早期に話し合い対策に取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食記録しています。水分は、便秘気味の利用者などには特に多く取れるようにしています。利用者ひとり一人に合わせ刻み食やトロミを付け嚥下や咀嚼状態に応じた食事を提供しています。また、栄養士の資格を持つ職員がおり、献立の基本を立ててもらいバランスチェックをしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、利用者の習字作品やプロ野球一覧表、町主催の文化祭に出品した作品が飾られ、一人でもゆっくりと過ごせるようにソファやテレビが置いてあります。また、テラスでは、花や季節の野菜を植え、リビングでは、大きな窓から見える竹林や季節の移り変わりがわかり、居心地良く過ごせる工夫をしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面所とトイレが設置してあり、カレンダーやぬいぐるみ、家族の写真、仏壇、テレビなど今まで大切にしていたものを持ち込んで、居心地よく過ごせるように家族と相談しています。利用者が自分の家と思ってもらえるよう家族の来訪時には、利用者がお茶を入れてもてなができるようにポットを置いている利用者もおられます。		